

ダム警報局とは？

ダム警報局

刈谷田川ダム管理所では、刈谷田川沿いに左の写真のようなサイレン・スピーカーを設置しています。ダム警報局といい、ダムからの放流による増水に伴う危険性が増加していることを、河川利用者及び周辺にお住まいの方々にお知らせする設備です。

ダムからの放流により、急激な(30分で30cm以上)刈谷田川の水位上昇が見込まれる場合に、サイレンと音声による警報を吹鳴します。

ダム警報局の警報が鳴ったら、直ちに刈谷田川から離れて、安全な場所へ移動してください。

スピーカー

こちらは刈谷田川ダムです。
ただいま、上流のダムから放流しています。
今後、さらに川の水が増えますので、ただちに川から離れて下さい。

(異常洪水時防災操作※を行う場合、以下の音声を送ります)
刈谷田川ダムから緊急放送です。
これまでに経験のないような豪雨が降っています。
ダムが満水になる恐れがあります。
今後、ダムからの放流を増やします。
ただちに、命を守る行動を取って下さい。

サイレン

ウー(60秒) 休み(10秒) ウー(60秒) 休み(40秒)

3回繰り返す

ここは雨が降ってなくても、
ダム上流では降ってるんだね
みんな川に近づいちゃダメだよ！

あっ、ダムの警報局が鳴ってるぞ
急いで川の外に逃げよう！

急激な水位上昇

平常時の水位

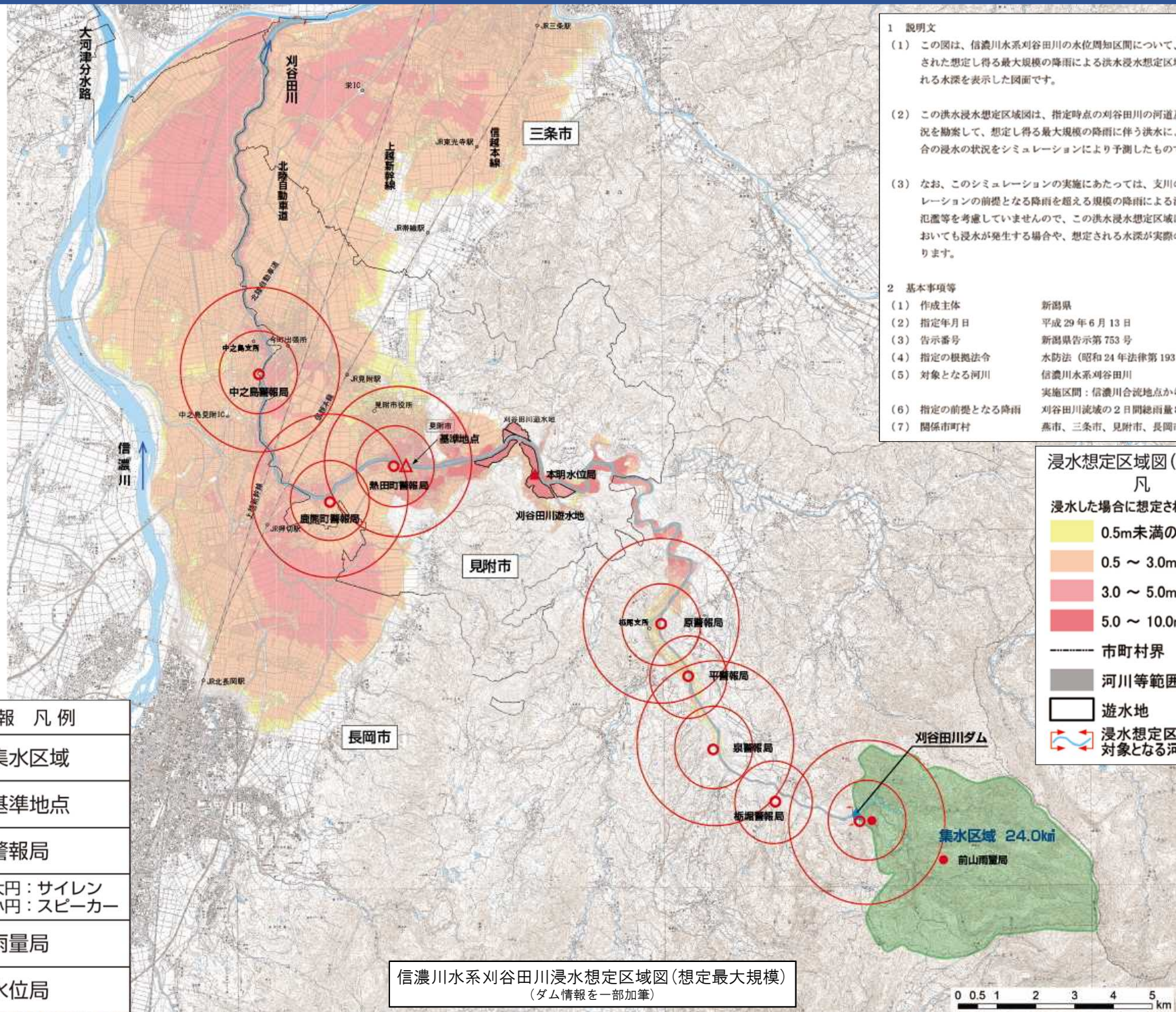
※異常洪水時防災操作について

異常洪水時防災操作とは、「計画を超える規模の出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、放流量を徐々に増加させ、流入量と同程度を放流する操作」をいいます。

通常の防災操作(洪水調節)では、流入する洪水の一部をダムに貯め込み、下流河川に安全な水量のみをダムから放流します。

刈谷田川ダムの洪水調節容量は、観測史上最大の流入量となった7.13水害(平成16年)時の洪水を貯めることができます。しかし、これまでに経験のない異常洪水が継続し、7.13水害時を超える洪水が流入した場合、ダムに水を貯めることができなくなり、ダムに水を貯め込まずに、流れ込む水を通過させる操作を行います。

刈谷田川ダムで管理しているダム警報局の配置図



1 説明文

- (1) この図は、信濃川水系刈谷田川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- (2) この洪水浸水想定区域図は、指定時点の刈谷田川の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により刈谷田川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2 基本事項等

- | | |
|----------------|---|
| (1) 作成主体 | 新潟県 |
| (2) 指定年月日 | 平成 29 年 6 月 13 日 |
| (3) 告示番号 | 新潟県告示第 753 号 |
| (4) 指定の根拠法令 | 水防法(昭和 24 年法律第 193 号) 第 14 条第 1 項 |
| (5) 対象となる河川 | 信濃川水系刈谷田川 |
| (6) 指定の前提となる降雨 | 実施区間：信濃川合流地点から刈谷田川ダム直下
刈谷田川流域の 2 日間総雨量 81.5 mm |
| (7) 関係市町村 | 燕市、三条市、見附市、長岡市 |

浸水想定区域図(想定最大規模) 凡 例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5 ～ 3.0m未満の区域
- 3.0 ～ 5.0m未満の区域
- 5.0 ～ 10.0m未満の区域

市町村界

河川等範囲

遊水地

浸水想定区域の
対象となる河川の区間

ダム情報 凡 例

	集水区域
	基準地点
	警報局
	大円：サイレン 小円：スピーカー
	雨量局
	水位局